茶ぐわ～ゆんたく 216

お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

ぎのわん 懐かしの雨事情

はいさ～い♪5月に入り、梅雨本番を迎えましたが、いかがお過ごしでしょうか？宜野湾市の雨事情を振り返ってみると、面白い写真がありましたので、ご紹介します。左の写真は1960年頃の軍用道路1号線の写真です。昔は排水路が整っていなかったため、道路が浸水することもしばしば。衛生面が気になるところですが、当時の子どもたちにとってはひと時の楽しい遊び場でした。

水浸しとなった道路（1960年頃、大山）

軍用道路1号線（現国道58号）で遊ぶ子どもたち（1960年頃、大山）

宜野湾市は東側の標高が高く、西側の海岸線に向けて低くなっています。水は高い所から低い所へ流れるため、大山や宇地泊などの地域では、雨が降ると水が溢れることがよくありました。また、軍用道路5号線（普天満宮前の三叉路）も大雨が降るたびに水が溢れ、汚水による悪臭が問題になっていました。当時の雨事情や道路事情などについては、市報縮刷版や、宜野湾市史に詳しく載っていますので、是非ご覧ください！

浸水し、川のようになっている道路（1973年、嘉数）

問 市立博物館 ☎870-9317

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く

其の62

文化課では、西普天間住宅地区で発見された「歴史の道（以下、中頭方西海道）」を中心に、沿道の湧水群・喜友名グスク・石切場跡など関連文化財を含めて、国の文化財として指定できる可能性について検討をしています。

中頭方西海道は、江戸時代初期に作成された国絵図に示されており、首里城を起点に沖縄島の西側を北上し浦添、宜野湾、北谷を経て、当時の読谷山（現、読谷村）へ至る道筋です。西普天間住宅地区の発見はその一部に該当します。

中頭方西海道は宿道と呼ばれており、間切役人（現、市町村職員）が首里王府から各間切の番所（現、役所）への諸令達や貢租の上納に使った重要な公道でした。また、西普天間住宅地区の宿道は「山手側の古い険しい道」と考えられています。1820年に建立された伊佐浜「新造佐阿天橋碑」によると、「海側の平坦な道」もありましたが、大雨になると川が氾濫して渡れず不便な状況でした。そのため首里王府が「佐阿天橋（石橋）」の架設工事を行い、「海側の平坦な道（現、国道58号付近）」が開通し、宿道も「海側の道」へ移動しています。今後、調査が進むことにより、宜野湾だけでなく近世琉球の社会変化が解き明かされていく可能性もあります。

文化財の国指定に向けては、行政だけでなく地元の人々の盛り上がりが非常に重要です。現在、西普天間住宅地区は区画整理事業のため、地区内の文化財を気軽に見ることができない状況です。そのため文化課では動画などデジタル情報を発信しています。市公式YouTubeチャンネルがありますので、是非ご覧ください。

問 文化課 ☎893-4430